

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 3月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	0172300121		
法人名	神恵内村		
事業所名	高齢者グループホーム かもめの家		
所在地	古字郡神恵内村大字神恵内10番地 (電話) 0135-76-5011		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年2月24日	評価確定日	平成21年3月17日

【情報提供票より】 (21年2月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 10年 9月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 1 人 非常勤 7人 常勤換算 4.4 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	4~9号室	12,000円
その他の経費(月額)	光熱費・日用品9,500円 (10~3月 9,600円)		
敷金	有() 円 <u>無</u>		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	260 円	昼食 260 円
	夕食	260 円	おやつ (実費) 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (2月 5日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.6歳	最低	78歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神恵内診療所 ・ 神恵内村歯科診療所
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成10年、階下診療所の病棟を改築し開設したグループホームである。施設を思わせる作りであるが、掲示物や置物を工夫し生活感・季節感を採り入れ清潔感と温かみのある家庭的な雰囲気を醸し出している。利用者は基本理念「信頼・安心・交流」の基で職員に見守られ、ゆっくり穏やかな生活を送り、有する力を発揮し老人学級・近隣の関連施設への参加、家事・菜園・趣味の活動や温泉・果実狩りなどの外出支援を受け、地域の中でその人らしく暮らし続ける基盤作りが進められている。階下の村営診療所とは、協力医療機関として密接な連携が図られ、日常の健康管理を含め利用者・家族にとり安心感と信頼の高い事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善課題は、運営推進会議の隔月・定期開催についてである。村役場担当者と事業所管理者による構成メンバーとの話し合い調整を通して解決が図られている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 「自己評価の実施方法・留意事項」を基に全職員が評価の意義や活用方法について再確認し実施している。外部評価と合わせて、現状と課題を確認し、取り組んでいきたい実践方策を検討し計画的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 社会福祉協議会長・民生委員協議会長・診療所医師・村役場職員に家族代表と管理者などを構成メンバーに隔月に開催している。事業所の活動内容・サービス提供・運営上の課題などについて報告し、多様な意見と協議を経て、サービスの向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 契約時の関係書類には、苦情に対する事業所としての基本姿勢と内外の苦情申立て窓口・苦情処理体制を明示している。事業所内には意見箱を設置し苦情の申し出を促すと共に、意見を述べやすい雰囲気作りに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) グループホームの設置者の村役場・委託会社・事業所管理者の3者は、事業所の実態を共有し、村祭りや神社祭などの行事を始め教育委員会主催の老人学級や近隣の関連施設の活動に参加し、地元の人々との交流を深め、地域で暮らし続ける基盤作りが進められている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「信頼・安心・交流」の3つを基本理念とし、具現した内容を明確にしている。「交流」については「地域社会との繋がりを密にして」とし、地域密着型サービスとしての役割を目指す内容の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事業所の見えやすい場所に大きな字で掲示し、月1回のスタッフ会議で理念を掘り下げ実践に向けて話し合っている。朝・夕の送り時には実践の経過が引き継がれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	村祭りや神社祭りなどの行事を始め、教育委員会主催の老人学級や近隣の関連施設の活動に参加し、地元の人々との交流を図っている。また、散歩時には誰ともなしに声掛け・挨拶を交わし、地域の一員として地域で暮らし続ける基盤作りが進んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	「自己評価の実践方法・留意事項」を基に、全職員が評価の意義や活用方法について再確認し実践している。外部評価と合わせて、取り組んでいきたい内容の実践方策を検討し、計画的に改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	社会福祉協議会会長・民生委員協議会長・診療所医師・村役場職員に家族代表と管理者を構成メンバーとし、隔月開催している。事業所の活動内容・サービス提供の方針・運営上の課題などについて報告し、多様な意見と協議を経てサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームの設立者である村役場・委託会社・事業所管理者の3者は、事業所の実態を共有し運営やサービスの課題解決に向けて協議し取り組んでいる。村役場担当者は業務の一環として事業所への来訪を勤務とし共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は道内広範囲の地方に居住しているため、主に電話にて生活の様子や心身の状態を詳細にお伝えしている。事業所の様子・予定・計画などは、隔月に「かもめ通信」を発行し、報告している。預り金の出納簿コピーや領収書は4ヶ月毎に送付し確認して頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時の関係書類には、苦情に対する事業所の基本姿勢と内外の苦情申立て窓口・苦情処理体制について明示している。事業所内には意見箱を設置し、苦情申出を促し、意見を述べやすい雰囲気作りに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度の離職を含む異動はゼロである。管理者は職員の異動による利用者へのダメージについて理解しており、全職員仲良し職場を目指し、食事会を定期的に企画し、コミュニケーションを大切に何でも話し合える雰囲気作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営方針には、職員育成の方針を規程している。内部研修は月1回のスタッフ会議時に抄読会を開催している。全スタッフが交互に担当し、福祉・介護・仕事の不安などテーマを統一せずに発表し意見交換を行っている。地域特性もあり、外部への研修会に出席できる機会は少ないため、他施設の研修会に参加するなど研修の機会を確保し研鑽に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	村にはグループホームが外にないためと隣町の事業所を訪問・見学し、介護の工夫も見て学んでいる。日常的には村内の福祉関連施設の理解と協力を得て研修会に参加させて頂き、福祉・介護の心と技を学んでいる。隣町事業所とは相互訪問を通じたサービスの質の向上について話し合い進行中である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の多くは近隣の関連施設からの入居者である。包括支援センターによる本人・家族や施設側と話し合いし、入居決定・サービスのいきなり開始のシステムになっている。入居後は、全スタッフが一体となり家族や施設の協力を得て、安心・納得の関係作りが行われている。	○	相談から利用開始までの間に、職員の施設訪問や事業所見学を繰り返し行ない、職員・利用者・サービス内容などと馴染みの関係作りを通して、安心・納得の上で本格的なサービス開始ができるようシステム作りが望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、調理の味付け・山菜や魚の調理法など、利用者の得意分野や人生経験から得た生活の技や文化を学び、時には励ましを受け、感謝・信頼性を築き共に過ごし支え合う関係が出来ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント・日常会話・言葉なき声・顔の表情などから、一人ひとりの思いや意向を把握し本人本位に検討し共有を図っている。気付きは送り時に話し合わせ、個人記録も行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	よりよく暮らすための本人・家族の意向や関係者の意向を総合的に検討し、課題とケアを明確にした利用者本位の介護計画を作成し、スタッフ会議で全職員が共有している。介護計画を基に「〇〇さんの計画書」を作成し、本人・家族に説明・同意得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、全利用者を対象にケアカンファレンスを実施し、2月毎にモニタリングを基に計画の見直しを行なっている。状態変化が生じた時には、随時状況に応じた介護計画を作成し、家族の確認を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて医療機関や老人学級・近隣の関連施設への送迎を行なっている。また、温泉や見学旅行の送迎など、事業所としてでき得る支援を柔軟に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者は階下の診療所医師を主治医として日常的な健康相談や隔週に診察を受けている。診察結果は事業所を中心に家族との情報交換も行なわれている。現在は全利用者にかかりつけ医はいないが、主治医により適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時には、日常の健康管理や急変時の対応について事業所の方針を基に本人・家族と話し合いをし統一を図っている。また、状態変化の度に、家族・主治医・近隣の関連施設と実際時の対応について頻繁に話し合いを持ち、終末期に向けて家族の安心に繋がる支援体制が整っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用開始時には、個人情報の取扱いについて事業所の基本方針を明示し、個人情報利用同意を受けている。誇りやプライバシーを損なわない対応について、特にトイレ誘導や失禁時の対応について日常的な確認に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所としての基本的な一日の流れはあるが、職員の都合優先や無理強いする事がないように努め、起床・食事・就寝など、利用者のペースで自由に生活ができるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や季節の食材を取り入れた献立を基に、利用者の力を活かしながら職員と一緒に調理・盛り付・食事・後片付けを行なっている。当日は見知らぬ外部の人間が加わったが(調査員)、徐々に馴れ談笑を交えた楽しい食事になった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日を設置しているが、利用者の心身の状態や希望により毎日、自由に入浴ができる体制になっている。利用者の状況により介助・見守りの支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の生活歴や有する力を把握し、老人学級・近隣の関係施設への参加や家事・菜園・趣味の活動などの場面作りを行ない、一人ひとりの張や楽しみに繋がる生きることへ支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買物・戸外活動など、一人ひとり希望や心身の状況に即した外出支援を行っている。また、施設見学・花見・温泉・地域行事への参加や家族と共に食事・外泊など、個別性に配慮した外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は鍵のないケアの大切さを理解し実践しているが、外出携行の強い利用者の生命を守る使命感から、家族の理解の下で入口暖簾に鈴を下げ見守りを行なっている。不慮の外出に際し村民協力体制はできている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署の指導の下で昼間を想定した避難訓練を実施している。事業所の職員を始め関連施設や役場職員を交えた連絡網を作成し、不慮の災害に対する連携・協力を呼びかけている。	○	火災に限らず台風・津波など地域に応じて考えられる災害や季節・昼夜を想定した総合的な災害訓練を、消防・警察・村民の指導・協力と連携を図りながら年2回以上は実施する事が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	村内施設の栄養士の指導を受け1500calを目安に栄養バランスを考慮した食事を提供している。水分は1000cc以上を目安とし、食事量と合わせて記録し全職員が共有している。医師指導の食事調節や居室冷蔵庫からの摂取量の調節も行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	階下診療所の病棟を改装し、やや施設的な感じはするが、掲示物が置物を工夫し生活感・季節感を採り入れ温かみのある家庭的な雰囲気を作っている。音・光・温湿度の管理は十分で居心地のよい共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備え付けベット以外は、利用者が長年使い慣れた家具や調度品を持ち込み、写真や作品を飾り、家族の協力を得て利用者の思いを大切に居心地よく過ごせる環境が作られている。		

※  は、重点項目。